

2022年9月発行



# CWS JAPAN NEWSLETTER NO. 72

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、  
ご理解をいただき、ありがとうございます

## パキスタン洪水緊急支 援実施中：国土の3分 の1がいまだに冠水

パキスタンでは、6月中旬以降、各地で平年の雨量を大幅に上回る大雨が続いていて、広い範囲で洪水や土砂崩れなどが相次ぎ、被害が拡大しています。全国の降雨量は30年平均の2.9倍で、一部の州では30年平均の5倍以上の降雨量となっていました。

パキスタン政府調べによると、2022年9月16日時点[1]で、全国で114万棟以上の家屋が被害を受け、76万5000棟以上が倒壊したことがわかっています。6月中旬以降、552人の子どもが死亡し、4,000人以上の子どもが負傷するなど、死者1,500人以上に上り、12,800人以上の負傷者が報告されています。現在、被災を免れた5,500校以上の学校が、避難民の避難所として利用されていますが、Sindh州では17,400校以上、Balochistan州で2,300校以上、Khyber Pakhtunkhwa州で1,400校以上、Punjab州で約1,250校の計22,000校が被害を受けたとされています。

河川の増水により道路や橋が流され、数百の村が孤立している地域もあるため、死者数は増加する可能性があるかと予測されています。

[1] UNOCHA, PAKISTAN: Monsoon Floods Situation Report 6 (as of 16 Sept 2022), アクセス日：2022年9月20日

＼ご支援をお願いします/  
パキスタン洪水  
緊急支援を実施中

国土の3分の1がいまだに冠水。広い範囲で洪水や土砂崩れなどが相次ぎ、被害が拡大しています。

寄付をする ▶ [こちら](#)



写真

村全体が浸水。この水が引くまでに  
3ヶ月～半年かかるとも言われています

@CWSA

"限られた安全な陸地を拠点として、移動診療車/チームの派遣を通して迅速に支援を展開し、脆弱層へアウトリーチしています。"

同国政府が非常事態宣言を発令後、CWS Japanは現地パートナーとともにから情報収集を開始し、緊急支援を開始しました。対象地域はSindh州で移動診療車による保健サービスを女性や子ども等の最も脆弱な人々、およそ6,000人に提供するべく活動しています。裨益者の大半である女性と子どもが、下痢、皮膚感染症、急性胃炎、その他の病気の診療を受けています。



写真

裨益者の大半は脆弱な女性と子どもです  
@CWSA



写真

移動診療車ではDr Anilaによる外来診療を提供しています@CWSA

また、必要に応じて母親と子どもたちに出産前後のケアを今後提供します。

活動を進めていく上で、洪水の影響を受けた村全体が、現在約2mから3mの水の下に沈んでおり、一部では被災地へのアクセスが困難になっていますが、限られた安全な陸地を拠点として、モビリティの高い（移動可能な）移動診療車/チームの派遣を通して迅速に支援を展開し、脆弱層へアウトリーチしています。



写真

対象地域で活動する移動診療車  
@CWSA

▶ 寄付をする ◀

対象地域では何千世帯もの家族が避難し、道端の仮設／自作の簡易テント下で暮らしている状態で、安全なシェルター、清潔な飲料水、食料、衛生的なトイレ、医療サービスの迅速な提供・確保が今後も継続して課題になっています。

皆様からのご理解・ご支援、心よりお願い申し上げます。

(文：プログラム・オフィサー 西澤紫乃)

# アフガニスタン食料危機への支援にむけて

今、世界で最も複雑な人道的緊急事態に見舞われているアフガニスタン。40年に亘る紛争、経済の低迷と現地通貨アフガニーの下落、干ばつや地震といった自然災害、貧困の拡大、加えて新型コロナウイルス感染症の拡大やロシアのウクライナ侵攻による燃料、飼料、食料価格高騰の影響により、全人口の95%が十分な食料を得られていません[1]。アフガニスタン人道対応計画2022によれば、総人口の半分にあたる2,150万人、つまり2人に1人が、食料不安を抱えているとされています[2]。

食料不安を測る世界標準の総合的食料安全保障レベル分類 (Integrated Food Security Phase Classification: IPC) でも、今年3～5月の間、アフガニスタンの総人口の約21%が「人道危機レベル」以上に（内5%は一番状態が悪い「飢餓レベル」のフェーズ5）、約31%が「急性食料危機レベル」のフェーズ3相当の状態にあります[3]。5歳未満の子どもにいたっては、重度の急性栄養失調で医療施設に収容される数が、2020年3月の1万6千人から今年3月には2万8千人と増えており[4]、拡大する食料危機に国際社会からの喫緊の支援が必要です。

CWS Japanはこうした状況に対して、ジャパン・プラットフォーム (JPF) の「中東・アフリカ食料危機支援プログラム」のもとで、現地パートナー団体と共に状況の酷い地域の一つであるナンガルハル県で支援を近々行う予定です。

[1] [Afghanaid, "People in Afghanistan are today facing a food insecurity and malnutrition crisis of unparalleled proportions"](#), アクセス日2022年9月23日

[2] [UNOCHA, Afghanistan: Humanitarian Response Plan \(2022\)](#), 11 Jan 2022

[3] [IPC, Afghanistan IPC Acute Food Insecurity Analysis: March - November 2022 \(Issued in May 2022\)](#), 9 May 2022

[4] [PBS, 1.1 million Afghan children under 5 could face severe malnutrition this year, U.N. says](#), May 25, 2022

"とりわけ深刻な危機に瀕している脆弱な人々を優先に、食料品入手のための現金を配布する支援を展開していく予定です"

とりわけ深刻な危機に瀕している障がいや慢性疾患を抱えている者、高齢者、国内避難民、女性や子ども、貧困に苦しむ者、孤児といった脆弱な人々を優先に、食料品入手のための現金を配布する支援を展開していく予定です。本事業では、食料不安を抱えている人々が、受け取った現金で栄養価の高い食料や生命維持に必要なものを手に入れられることで、アフガニスタンの食料安全保障の改善に寄与することを目的としています。今後の活動状況については、引き続き折に触れて報告してまいります。



写真

2022年2月から実施した緊急支援時の様子。当時の事業のアプローチと同様に食料品をメインとした、生命をつなぐために必要な生活必需品入手のための現金を配布します@CWSA

(文：プロジェクト・オフィサー  
ライン 静香)

# アジア太平洋閣僚級 防災会議：新たなパ ートナーシップが生 まれていきます

2022年9月19日から22日にかけて、オーストラリアのブリスベンでアジア太平洋閣僚級防災会議（Asia-Pacific Ministerial Conference on Disaster Risk Reduction: APMCDRR）が行われ、CWS Japanもアジアの仲間たちと参加してきました。CWS JapanがADRRN Tokyo Innovation Hubとして推し進めているインドネシアやフィリピンのイノベーターも参加し、様々なセッションにおいて「ローカル（現場の）リーダー達」の重要性を訴えてきました。



写真  
APMCDRRオープニングセッション

アジア地域のローカルリーダーを表彰するイベントでは、水鳥国連事務総長特別代表やフィジーのソコ大臣等も参加して下さい、「HazardをDisasterにしない為、ローカルリーダーシップがどれだけ重要か」と、深く感銘や共鳴を表明頂きました。このイベントの紹介ビデオもありますので、是非ご覧いただけますと幸いです。

次のアジア太平洋閣僚級防災会議は2024年に開催されますが、次回に向け太平洋のNGOネットワークであるPIANGOと我々が所属しているASIAN DISASTER REDUCTION AND RESPONSE NETWORK (ADRRN)の更なる協働も確認され、次回は太平洋のローカルリーダー達が認知・表

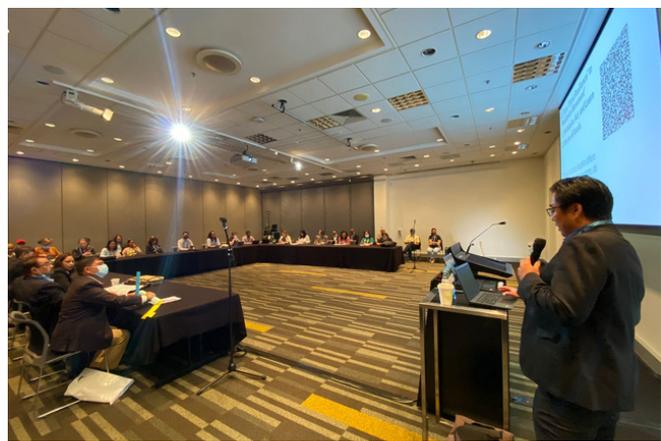


写真  
市民社会ステークホルダーグループの  
ファシリテーションの様子

彰されるよう、準備を進めて参ります。

CWS Japanにとってローカライゼーションはとても大事なコンセプトです。災害による被害を出来る限り軽減する為の様々な現場の施策を担うリーダー達が政策決定者に認識され、真のパートナーとして位置づけられるよう、引き続き人を繋げ、発信を続けて参ります。



写真  
ローカル・リーダーズ・フォーラムの  
受賞者と国連・政府代表者等

また、CWS Japanとして積極的に取り組んでいる、「防災・減災の視点を緊急人道支援の現場に繋げる」事は今回のアジア閣僚級防災会議の議長声明でも強調されています。被災する人が出来る限り少なくなるよう、そして増え続けるリスクを許容範囲内に収められるように、仲間を増やし、更なる防災・減災の推進に取り組んで参ります。

（文：事務局長 小美野 剛）

# インターン活動期間を終えて

2022年2月より約8か月間、学生インターンとしてCWS Japanで勤務させていただきました。SNS定期更新を中心に、「学生ならではの視点」を活かしつつ、若者向けイベント企画や広報物作成など幅広い業務に携わらせていただきました。特に、メインのSNS定期更新においては、投稿内容のアイデアの調査からデザイン作成にいたるまで一連の作業に関与し、読者目線の広報の難しさやそこでの新たな工夫を実践的に学ぶことのできる貴重な経験になりました。

また、インターン活動を通じてCWS Japanの活動や職員の方々に身近で触れる中で、「地域の視点」や「当事者の視点」を尊重する支援の重要性を改めて感じるようになりました。一方的に物資やサービスを供給するのではなく、「地域とともに考え、協働する」という姿勢が、本来あるべき「包括的かつ持続可能な支援」に必要な不可欠なものなのだ強く実感しました。

短い期間ではありましたが、インターン活動を通じて多くの学びと刺激を得ることができました。今後はCWS Japanでの経験を活かしつつ、国際協力や人道支援に貢献できるグローバルな人材を目指していきたいと思っています。本当にありがとうございました。

(文：インターン 館農知里)

過去のニュースレターやインタビュー記事は下記よりアクセス頂けます。

過去のニュースレターは[こちら](#)



インタビュー記事は[こちら](#)



上島 安裕 様 | 一般社団法人ピースボート...  
7月 07, 2021 ■ パートナーの声



堀内 英様 | 特定非営利活動法人 国際協力...  
7月 07, 2021 ■ パートナーの声



眞弓 孝之 様 | 国土防災技術株式会社事業...  
6月 06, 2021 ■ パートナーの声



中村 清美 様 | 国土防災技術株式会社国際...  
6月 06, 2021 ■ パートナーの声

ご高覧頂き有難うございます。次回のニュースレターは10月末の発行を予定しています。

特定非営利活動法人CWSJapan  
〒169-0051  
東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：  
public@cwsjapan.jp  
電話：  
03-6457-6840



[CWSJapan](#)



[@Japan\\_CWS](#)



[cws\\_japan](#)